

われる暹羅国よりの酒について論ずる一方、琉球の泡盛との関係について述べている。

(7) 冒坤李陀屋 冒坤について東恩納氏はオークン、という位階、李陀屋は名前、とする(三九一)注(4)の『東恩納』一八六頁)。(三九一四)には坤李陀屋とあり冒の字がない。坤は位階名のクーン(Khun)であり、岩生成一『南洋日本町の研究』昭和四十一年 岩波書店、一五六―七頁を参照。また(三九一一)注(5)にあげた使者名の例を参照。

(8) 西洋紅布 西洋布の一種か。(三九〇二)注(5)参照。

1-39-13

暹羅国の長者奈羅思利の、来船に託して礼物を贈る書簡

(一四八〇、四、一二)

暹羅国の長者、名^①下奈羅思利、頓首して百拝す。

貴国王万々歳。純誠仁徳の心もて毎年咨来して絶えず。区々として思念して休^やまず。隻船を駕して国に到り謝恩せんと欲するも、国に賢者の海道に知達して貴国殿下に至りて拝謝す可きもの無きを苦思す。今、以て来船に寄せて、香花白酒一埒・紅酒一埒を上^{たてまつ}る。

成化十六年(一四八〇)四月十二日 奈羅思利、百拝して仰望す

注* (三九一一) 総注参照。

(1) 名下 名前を…というもの、の意。

1-39-14

暹羅国の長史蕭奈悦本の、返礼の書簡(宛先、年月日欠)

暹羅国の長史の蕭奈悦本、誠に上命を奉ず。

去歳に宝船^②前來するも火焼して俱に空しくするは天命に係由る。

本国王、正使奈悶英謝替・副使奈曾謝替・通事奈榮等を差^{つか}わし、海船一隻を掌駕し、特に正使澹馬巴・副使社納奇・通事鄭興等を送り、咨文を順齎し並びに方物を奉り回国せしむるに、風水便ならざるに因り暹羅に回還し、押冬^①して修船す。今、將に打発し前みて回国せしめんとするに、又端^{はた}して貴国王、正使倪実・通事鄭珞等を差わし、咨文並びに奉謝の礼物を順齎し、及び管事列位に送れば、俱に已に收受を行う。洪恩の咨、洪厚の徳を感鑑し、事例に仍照し就将^{ただち}に理物^⑤し来使を打発して回還せしむ。賢王、以て両国の一家に同じきが如きの好みもて往来し通情するを見よ。薄意を留むるを乞う。鑑納せよ。不宣。

今、回奉を開^{しめ}す

屋把摩訶薩陀烈

縁鎖袱一匹